

2021年8月10日

県産業廃棄物最終処分場建設に反対する連絡会

代表 荒川照明

日立市長の県産業廃棄物最終処分場「受け入れ」表明に対する

抗議声明

2021年8月5日、日立市長は、自らの要請で開催させた日立市議会全員協議会で、一方的に県産業廃棄物最終処分場の受け入れを表明しました。海・山・溪流のある自然豊かな環境都市日立市に、巨大最終処分場の建設は最もふさわしくありません。私たちは、今回の市長「受け入れ」表明に対して強く抗議します。

1. 日立市産廃特別委員会は、「エコフロンティアかさま」での環境の実態について、また、茨城県がこの間実施した整備候補地の地質等の調査結果についても専門的な検討を行なわないまま、県新産業廃棄物最終処分場の受け入れを議決しました。日立市長も専門的な調査も検討もしないまま結論を出した訳で、重大な手続きの瑕疵があります。
2. 茨城県がこの間実施した整備候補地の地質調査中4本のボーリング調査では、石灰岩中の空洞や高透水性の存在が明らかとなり、「追加のボーリング調査を行う」となりました。にも拘らず、市議会産廃特別委員会は、「県は40回の住民説明会を開催した」、「市議会産廃特別委員会を14回開催した」、「県は候補地の環境調査を行った」等として、「住民の一定の理解は得られた」との、調査結果とは正反対の結論を出したのです。
3. 最終処分場（埋立地）の基本設計も詳細設計も示されず、示されたイメージ図でも新搬入道路の記載はない等、市民も日立市も処分場の安全性を検討することは出来ておりません。
4. 私たちが市議会に提出した請願書および陳情書については、産廃特別委員会での精査も、参考人質疑もないまま、6月市議会で、「産廃特別委員会で受入を容認したから、付託された請願、陳情はすべて不採択」とされました。にも拘らず、市長は「市議会決定を重く受け止める」とし、受け入れを表明したのでは、自治体の首長としての主体性を放棄した対応です。
5. 候補地のセメント鉱山跡地は、広大な唐津沢の谷間にあり、「エコフロンティアかさま」とは地形が全く異なります。私たちは、大井川知事宛てに提出した「異議申し立て資料」で、谷間の湖は防災ダムの役割をしており、処分場が出来れば、集中豪雨で大洪水・土石流が発生し、施設と鮎川の破壊の危険があると指摘しましたが、市長は、具体的な検討結果を示さず、「県がしっかり対策する」として建設受け入れを表明しました。
6. 私たちは、多くの市民の協力で、市長宛て累計1万5千550筆の反対署名を提出しており、産廃最終処分場建設反対が市民多数の意思です。私たちは、小川市長が、受け入れを撤回するまで、引き続き、市民と共に運動を進めます。